

2024年度(令和6年度)の取り組み報告

- 日本建築士事務所協会連合会/BIMと情報環境WG
- 2024.12.25第13回建築BIM推進会議



報告内容

【活動報告】

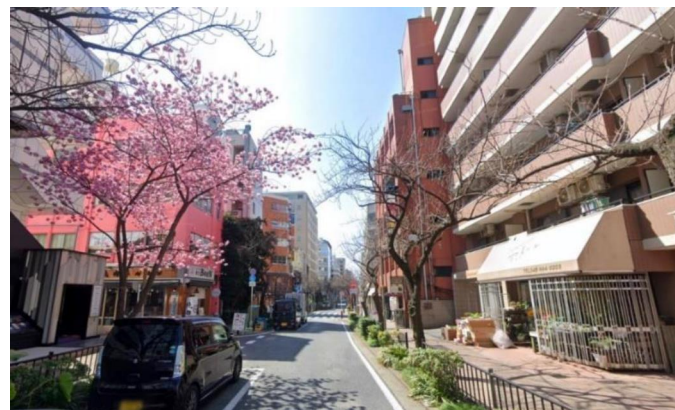
- ①マロニエBIMコンペかながわ2024の開催
- ②令和6年度BIM技術者に対する技法、技術研修の実施
- ③BIMポータルサイト「BIM GATE」の充実化
- ④会誌「日事連」での連載を継続

【次年度の展望】

活動報告

①マロニエBIMコンペかながわ2024の開催

- 主管会：（一社）神奈川県建築士事務所協会
- テーマ：
「継承の作法とデザイン ～都市と建築のパブリックスペース～」
→BIMの普及・可能性の発掘、社会活動に役立つツールとしてのBIMの存在意義を示すことを問うものとした
- 対象敷地：横浜市中区/関内桜通りと指定の既存建築物



画像1: 関内桜通り



画像2: 対象既存建築物とした泰正ビル
（戦災復興の象徴“防火帯建築”）

活動報告

①マロニエBIMコンペかながわ2024の開催

実施期間:

- エントリー期間
令和6年9月6日(金)～10月5日(土)
- 課題発表・オンライン説明会・質疑応答
令和6年10月5日(土)
- コンペ作品提出締切日
令和6年10月14日(月祭)17:00まで
- 一次審査
令和6年10月25日(金)
- 二次審査(公開審査)
令和6年11月2日(土)

活動報告

①マロニエBIMコンペかながわ2024の開催

- エントリー75組、提出作品は24作品
- 「3 分以内の作品動画」の提出を必須要件として追加
→プレゼンテーション手法においても、一歩先の未来が垣間見えた
- 審査委員長には(株)オンデザインパートナーズ代表で東京理科大学准教授の西田氏を、審査委員には20代1名、30代1名を迎え実施
→コンペ提案者、若手審査委員の双方に大きな刺激を与えあった



画像3:最優秀賞「開花する隠れた情景たち」
プレゼン風景



画像4:奨励賞「未ダ発展途上」
プレゼン風景

活動報告

①マロニエBIMコンペかながわ2024の開催

審査委員

役職	氏名	所属
審査委員長	西田 司	株式会社オンデザインパートナーズ 代表 東京理科大学 准教授
コーディネーター・審査委員	池田 靖史	東京大学大学院工学系研究科建築学専攻 特任教授
審査委員	田中 大貴	株式会社 Urth 代表取締役 CEO
〃	豊嶋 太郎	国土交通省 住宅局建築指導課 課長
〃	番匠 カンナ	idiomorph
〃	山家 京子	神奈川大学 建築学部 教授
〃	上野 浩也	一般社団法人日本建築士事務所協会連合会 会長
〃	平山 正義	一般社団法人神奈川県建築士事務所協会 会長

活動報告

①マロニエBIMコンペかながわ2024の開催

- **最優秀賞(国土交通大臣賞):1作品**
作品名:開花する隠れた情景たち
メンバー:王丸舞子、石川博利、小林泰、堀井秀哉、田邊翔太
所属:(株)安井建築設計事務所
- **優秀賞(日事連賞):1作品**
作品名:Streat to Retreat
メンバー:榎本愛弓、松尾悌弘
所属:熊本大学大学院
- **優秀賞(よこはま・関内まちづくり賞):1作品**
作品名:Egg Plant
メンバー:高木 涼雅、本告紫織、焼山さやか
所属:麻生建築&デザイン専門学校
- **審査委員長特別賞:1作品**
作品名:Path of Inheritance ～横浜の記憶を未来へつなぐ道～
メンバー:徳永将貴、滝澤耀一、時政伊織、馬場拓海
所属:工学院大学

活動報告

①マロニエBIMコンペかながわ2024の開催

- ・ 奨励賞：4作品

作 品 名:Join us Joint

メンバー:影山朱莉、明石一乃 清水翌花 竹内沙爽

所 属:宇都宮大学

作 品 名:未ダ発展途上

メンバー:藤本滉太、白石結莉、稗田朋華

所 属:麻生建築&デザイン専門学校

作 品 名:まもなくぽぽ関が参ります

メンバー:大村虎鉄

所 属:麻生建築&デザイン専門学校

作 品 名:舞散るきっかけの桜

メンバー:松井 直之、赤木 一紀、田中 智、菊池 幸音

所 属:(株)サンケイビルテクノ

活動報告

①マロニエBIMコンペかながわ2024の開催

2013年より栃木会から始まったマロニエBIMコンペティションは毎年進化を重ねながら、熊本(主管:福岡会)、宮城(主管:宮城会)、大阪(主管:大阪会)、そして今年度は神奈川(主管:神奈川会)と、地域を限定せず、全国各地で開催することで、日本全域のBIMの普及・促進に努めてきた。

社会人の参加者が伸び悩む状況には、働き方改革等の影響などで、コンペ参加への時間確保が難しい事情が想定される。改善が課題。

マロニエBIMコンペ参加者推移(2019年～2023年)

単位:人

	2019	2020	2021	2022	2023	2024
エントリー数	55	34	45	61	82	75
提出作品	41	17	30	32	34	24
学生	24	10	21	16	19	18
社会人	17	7	9	16	15	6

活動報告

②令和6年度BIM技術者に対する技法、技術研修の実施

建築BIM加速化事業(調査・評価事業及び普及・広報事業)として、円滑なBIM利用による建築設計業務の普及を一挙に進めることを目的とした「BIM技術者に対する技法、技術研修」を実施中。

昨年度の実施内容を踏まえ以下の内容を拡充し実施

- 申込要件の緩和
- カリキュラムの更新
- 定員100名→400名へ大幅拡充

国土交通省 建築BIM加速化事業 令和6年度 BIM技術者に対する 技法、技術研修

申込期間

6/3 [月] ～ 6/28 [金]

(定員に満たなかった場合、申込期間を延長する可能性があります。)

受講期間 (動画講習 3 か月 + 実技ライブ演習 1 か月)

9/2 [月] ～ 12/27 [金]

概要

令和5年度に実施したBIM技術者に対する技法、技術研修を、令和6年度も開催します！

実習を交えた研修と、実際の建築プロジェクトを作成する演習の二段階の研修で構成された実践的な講習プログラムにより、建築技術者が実際の建築プロジェクトでBIMを活用して完成させるために必要な一連のスキル習得を目指す研修です。各ソフトの利用実態に合わせたBIMソフト別のクラス編成とカリキュラムで実施します。

研修は、動画講習と実技ライブ演習にて、以下の通り実施します。

▶動画講習 (9～11月) : 受講期間内いつでも視聴いただける

オンデマンド方式にて実施

▶実技ライブ演習 (12月) : 12月は週に1度ライブ演習を実施

なお、今年度は申込要件を緩和し、建築士資格を持たない建築士事務所の設計者の方にもご参加いただけます。ぜひ、お申し込みください。

定員

400名 (※1、2)

(※1) Archicad (定員100名)、
GL00BE Architect (定員100名)、Revit (定員100名)、
Vectorworks (定員100名) のソフトごとに開講します。

(※2) 定員を超える申込があった場合は抽選とします。

申込要件

①受講申込時点で建築士事務所に所属している法人者であること

(建築士資格未取得者も申込可。1事務所からの複数名の申込も可。)

なお、1事務所から複数クラスへの申込は不可。)

②各申込クラスの利用ソフトを所持している等利用できる環境にあること

③4か月間の講義すべてを受講できること

④オンラインにより受講できる通信環境にあること

※Archicadクラスを受講希望の方で、BIM Classesを既に受講済み又は受講中の方については、

内訳が異なるためお申し込みできません。

※一部ソフトについては受講期間内限定のライセンス貸与が可能です。詳細は右記の申込

サイトで確認ください。

参加費

無料

申込方法

右記のBIM GATE内特設ページの申込フォームよりお申し込みください。

[主催] 一般社団法人日本建築士事務所協会連合会

画像5:広報チラシ

活動報告

②令和6年度BIM技術者に対する技法、技術研修の実施

- 定員400名に対して応募総数1,452名と、去年の応募総数642名をも大幅に上回る応募があった。実務での活用に悩んでいる技術者が、まだまだ多いことがうかがえる。

BIM技法、技術研修 応募総数推移

単位:人

	2023	2024
定員	200	400
応募総数	642	1,452

※2023年の定員は前期100名、後期100名の合計。

2024年は定員拡充のため、定員400名の1期に絞って開催。

活動報告

②令和6年度BIM技術者に対する技法、技術研修の実施

- 実施中の動画講習に関するアンケートの途中経過を見ると、「実践的で役に立った」という声が多く寄せられるとともに、自身が習得したスキルを他の設計者や第三者へ広めたいという前向きな声も多く寄せられた。
- 実務応用への課題として、2Dで進めている作業を2DからBIMにする利点を発注者や上司に理解させる苦心、簡易的に入力できて操作を容易にできないかの要望など、研修参加要件緩和により、実際に活用しているBIM使用者からの率直な声を得られた。
- 集計結果は次回報告する。

活動報告

③BIMポータルサイト「BIM GATE」の充実化

- 会誌「日事連」で連載中のBIM活用事例記事のアーカイブの公開（会誌掲載後一定期間経過したもの）、有用なツールの紹介など、日々情報を更新。
- BIM技術者に対する技法、技術研修の講習教材について、公開の承諾をいただいたGLOOBE Architect及びVectorworksの2クラスの講習動画及びテキストをBIM GATEを通じて一般公開予定。
Revitについてはテキストのみ公開予定。



画像6:BIM GATE導入事例ページ

活動報告

③BIMポータルサイト「BIM GATE」の充実化

BIMの普及・促進に関わる継続した情報提供により、着実にユーザー数を増やしている。

今後も広く活用されるよう、なお一層の充実を図っていくので、情報提供やリンク、運営アドバイスも期待している。

BIM GATE サイトURL
→<https://bimgate.jp/>



画像7:BIM GATE利用者数(前回報告)



画像8:BIM GATE利用者数(最新データ)

活動報告

④会誌「日事連」での連載を継続

BIMの普及促進を目的として、最新情報の紹介、基礎知識の提供など、幅広い視点からBIM活用に役立つ記事を掲載。2カ月に1度の連載で、現在までに通算33回掲載。

引き続き、BIM普及・推進の取り組みなど、BIM導入後～活用に至るまでの事例を紹介し、BIMのさらなる普及に取り組んでいく。



BIMで変わる、BIMで変える
—BIM をとことん使いこなそう!—

この連載では、建築ジャーナリストの樋口一樹氏の案内でBIMの最先端の動きを紹介してきました。第2部は、BIMを実際に使いこなしていただける建築士事務所が登場いただき、設計プロセスの合理化だけでなく、建築士事務所の経営資源に大いに活用した実体験をお聞かせします。

これは、BIMの可能性の扉を開けてみたら、そこには、建築界や社会もまるごと変えてしまおうとつなぐイノベーションが潜んでいた、というお話です。みなさん、BIMを使って元氣になりましょう！

(BIMと情報環境ワーキンググループ)

■33■ ひとり設計監理の質を
上げるためのBIM活用



松永 務
一級建築士事務所
アトリエMアーキテクツ (専務会)

2D設計からBIMへの移行背景

2D設計が主体で、3Dは躯体架構やイメージの一部に使用するだけ。私のような設計環境の方は意外に多いのではないのでしょうか？私の設計活動がスタートしたのは1981年で、私が勤めていた一色建築設計事務所東京では、手書き世代として真っ黒なローローペーパーのスケッチと青焼き図面。しばらくしてMacintoshのMiniCADが導入されましたが、当時はまだまだ試行錯誤の時代で直接触れるのはスタッフで、本格的な導入時には、立場的にあまり触れる機会がありませんでした。

1996年に静岡に自邸兼アトリエを建設してから3年間は静岡から新幹線通勤をしましたが、その独立準備時期に東京スタッフからCADの手ほどきを受けながら、2000年に一級建築士事務所アトリエMアーキテクツを設立した時点で、ようやく私のVectorworksでのCAD設計がスタートしました。【写真1】それから18年、冒頭の2D設計が主体で、3Dは躯体やイメージの一部という設計体制でした。

2018年に業務機のMac環境のアップグレードを機にVectorworksArchitectへバージョンアップしてから、気になっていたBIMについて、解説本

「VECTORWORKS ARCHITECT で学ぶ 住宅設計のためのBIM入門」とVSS (Vectorworks Service Select) 契約によるサポートセンターにお世話になりながら使っているうちに、私がやりたかった作業環境にとつてのハードルがかなり低くなっていることに気がつきました。

自分の設計スタイルにあったBIM

私が、これまでの2D設計+補助的なイメージ3Dの設計スタイルでは限界がある、と考えていた点を具体的にお話しします。

それぞれのプロジェクトが多様化・複雑化する中で、どうしても頻繁に変更が出てきます。それはプロセスとして当然なのですが、その変更に対して個別に図面を描く2D設計では修正に多くの時間が費やさ



【写真1】アトリエMアーキテクツの作業環境

次年度の展望

BIMの普及を目指して、今年度実施している取組みに改善を加えながら各団体等と連携して推進したいと考えている。

次年度を見据えながら、引き続き活動を進める。

ご清聴ありがとうございました。